

## 学年間のつながりを生み出す学習環境デザイン

## ■講師

山田 嘉徳（大阪産業大学 全学教育機構 講師）

2013 年関西大学大学院心理学研究科修了（博士（心理学））。日本学術振興会特別研究員、関西大学教育推進部特任助教を経て、現職。専門は教育心理学。著書に「大学で学ぶということ―ゼミを通じた学びのリエゾン―」（ナカニシヤ出版）がある。「協同する教育の実践的研究」をテーマに全学（各学部教授会等）のFD研修会の講師を担当。またアクティブラーニングWG、ラーニングコモンズWGの運営委員を担い、協同的な学びをデザインする教育実践・研究に従事。学びを分析的に記述し、モデル構築をはかる質的研究の方法論にも関心を寄せる。

## ■プログラム概要

本プログラムでは、少人数の専門ゼミにおいて協同的な学びをより一層深めていくための「学年間のつながりを生み出す学習環境」を考え、デザインできるようになることを目指します。

本プログラムは、レクチャー編とワーク編で構成されます。レクチャー編では、協同的な学びをデザインするにあたっての理論的な背景を確認します。「学年間のつながり」を考えるための概念をおさえ、当該概念がなぜ「学年間のつながりを生み出す」ことに有益で、協同的な学びを下支えするのかについて考えます。また話題提供として、学士課程教育の一環として、3年生と4年生とが協同して学ぶゼミ活動を題材に、いかに理論が「学年間のつながりを生み出す」のに活かされてるかを確認します。そしてワーク編では、「学年間のつながりを生み出す学習環境デザイン」のあり方をグループで考えます。学位プログラム毎に異なる複数のケースを用いて、1年間の授業デザインについて、専門基礎の学びが、卒業研究（卒業論文）あるいは卒業プロジェクト等の学士課程教育の「集大成」としての学びへの接続が可能となるような授業計画について考えます。

## ■準備物や事前課題

本プログラムでは『アクティブラーニングのための心理学』[A. プリチャード&J. ウーラー（著）、田中（訳）、北大路書房、2017]をテキストに用いますので、事前に読んでおくことが望ましいです。

## ■主な受講対象

教歴や専門は問わず、広く学年間のつながりを生み出す学習環境デザインのための工夫とそれを裏付ける理論的背景をきちんとおさえておきたいという方の受講を歓迎します。

なお大学院を擁した講座制をとるゼミ（研究室）や人文・社会科学系のゼミとでは、そのデザインのあり方は異なると考えられますので、当日の参加者の専門性を考慮した上で、グループ編成を行う予定です。また専門ゼミは持たないが、広く異学年交流を通じた学習環境デザインそのものを考えてみたいという方の受講も歓迎します。「学年間のつながり」というある種のコミュニティの社会・文化・歴史的な人的リソースの活用、すなわち、つながりを生み出す、というところで、理論にきちんと裏付けられた知見が得られるようなプログラムを提供したいと思います。

## ■本プログラムの到達目標

1. 協同的な学びをデザインするための理論的背景となる考え方や概念が説明できる。
2. 学年間のつながりを生み出す学習環境を備えた1年間の授業計画を設計することができる。
3. 学年間のつながりを生み出す学習環境にまつわる教授・学習上の利点と配慮すべき点について教員側・学生側の視点から説明できる。

## ■日時・場所

日時：平成29年8月24日（木）10:00～12:00

場所：徳島大学常三島キャンパス